

行政視察報告書

令和 8年 3月 16日

長浜市議会議長 伊藤喜久雄 様

長浜市議会議員 多賀 修平

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 恵風会行政視察
2. 視察期間 令和8年3月3日(火)～3月4日(水)
3. 視察場所及び目的
 - ① 奈良県郡山市豊臣兄弟！大和郡山大河ドラマ館
・観光振興や地域活性化の取組について
 - ② 奈良県大和郡山紺屋町 紺屋館
・歴史的町並みの再生について
 - ④ 兵庫県神戸市中央区 人と防災未来センター
・防災教育の重要性について

4. 調査内容感想等

・視察の目的

- ① 大和郡山大河ドラマ館における展示内容や運営手法を通じて、大河ドラマを契機とした観光誘客の取組や地域資源を活かした情報発信のあり方を調査し、本市における観光振興および地域活性化施策の検討に資することを目的とする。
- ② 奈良県大和郡山市の紺屋町に所在する紺屋館は、江戸時代の町家を活用し、かつての染物業の歴史を伝えながら、観光・交流機能を兼ね備えた施設として運営されている。

本視察は、歴史的建造物を単に保存するのではなく、展示・体験・物販等を組み合わせることで日常的なにぎわいを創出している取組や、地域住民・関係団

体と連携した運営手法、さらには周辺の町並みと一体となったエリア全体での魅力向上のあり方について調査することを目的としたものである。

- ③ 人と防災未来センターにおける展示内容や防災教育プログラムを通じて、災害の教訓を次世代へ伝える取組や防災意識の向上手法について調査し、本市における防災教育の充実および地域防災力の向上に資することを目的とする。

・視察の内容

- ① 大和郡山大河ドラマ館では、豊臣兄弟をテーマとした大河ドラマに関連する展示が行われており、人物像や歴史的背景、ドラマ制作の裏側などについて、映像やパネルを活用し分かりやすく紹介されていた。

館内には、来館者が楽しみながら歴史に触れることができる体験型展示やフォトスポットが設けられており、幅広い世代の来訪を促す工夫がなされていた。また、地域の観光資源や特産品の紹介も併せて行われており、大河ドラマを契機とした観光誘客と地域の魅力発信を一体的に推進している点が特徴的であった。

さらに、会場周辺には郡山城跡が位置しており、徒歩で回遊できる動線が確保されていることから、来訪者が展示施設にとどまらず周辺の歴史資源へと自然に足を運ぶ仕組みが構築されていた。こうした施設と周辺資源を一体的に活用した回遊性の向上は、滞在時間の延伸や地域全体のにぎわい創出につながる取組であると感じた。

- ② 現地では、古い町家を活用した施設として、歴史的建造物の保存と利活用を両立させる様々な取組がなされていた。

特に紺屋館では、藍染めのストールや小物などのオリジナル商品の販売が行われており、地域資源を活かした物販機能によって収益確保と魅力発信を両立している点が特徴的であった。また、案内所機能も兼ね備えており、来訪者に対して周辺観光情報を提供することで、地域内の回遊を促進する仕組みが構築されていた。

さらに、館内には実際に使用されていた染色用の道具や設備が展示され、当時の暮らしや産業を身近に感じられる空間となっていたほか、誰もが気軽に

立ち寄れる開放的な雰囲気が醸成されており、観光客のみならず地域住民の利用も意識した施設運営がなされていた。

- ③ 人と防災未来センターでは、阪神・淡路大震災の記録や映像展示を通して、震災の経験や教訓を後世に伝える取組について学んだ。

館内では、震災発生直後の状況を再現した大型映像や被災者の証言が紹介されており、災害の恐ろしさを実感するとともに、発災時の迅速な避難行動や地域における助け合いの重要性について理解を深めることができた。

また、展示は発災から復旧・復興に至るまでを時系列で学べる構成となっており、災害は一時的な被害にとどまらず、その後の生活再建や地域再生に至る長期的な課題であることを認識した。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

- ① 本市においても、令和8年2月より豊臣秀吉をテーマとした博覧会が、大通寺周辺を中心に開催されており、歴史資源を活かした観光振興が進められている。

一方で、長浜城跡との距離があることから、来訪者の回遊性や滞在時間の延伸に課題があるとともに、徒歩での移動が困難な高齢者等にとっては周遊しにくい状況も想定される。

今回の視察を踏まえ、会場間をつなぐ動線の工夫や案内機能の充実に加え、移動手段の確保や休憩機能の整備など、来訪者の属性に配慮した受入環境の充実を図る必要がある。

さらに、周辺の観光資源と連携した一体的な誘客施策を展開することで、来訪者が地域全体を周遊できる仕組みづくりを進め、滞在時間の延伸とにぎわい創出につなげていくことが重要である。

- ② 大和郡山市の取組は、歴史人物やまわりの地域資源を活かしたイベントは地域の魅力発信や観光振興に大きく寄与することを学んだ。今後、長浜市においても歴史文化資源を活かした観光振興や地域の魅力発信に活かしていくことが重要であると感じた。

単なる「展示施設」でなく収益を生む拠点（物販＋サービス）として成立している。長浜市も長浜の強み（食・歴史・文化）を「体験＋商品＋観光」をセット化にして空き家活用と観光の高度化を同時に進める必要がある。

- ③ 人と防災未来センターでは、阪神・淡路大震災の記録や映像展示を通して、災害の経験と教訓を後世に伝える取組や、防災教育の重要性について学んだ。災害の記憶を風化させず、日頃から地域全体で防災意識を高めていることの大切さを改めて認識した。

私はこれまで、長浜市の旧虎姫地域における河川周辺の防災対策について一般質問でも取り上げてきた。近年は局地的な豪雨の増加により、河川の水位上昇や排水能力に対する地域住民の不安は依然として大きく、浸水対策や河川管理の継続的な改善が求められている。しかし、一般質問で指摘や提案を行っても、十分な改善につながっていない課題があることも現状である。

今回の視察を通じ、災害の教訓を学び伝えるとともに、地域の実情に即した防災対策を着実に進めていく必要性を改めて強く感じた。河川周辺の安全対策や排水機能の点検・整備については、地域住民の安心・安全を守る観点からも、より一層の取組と具体的な対応が求められると考える。今後も行政に対し、実効性ある防災対策の推進を強く求めていきたい。